



# 東京多摩プロバスニュース

第 31 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行:編集委員会 2010. 7. 7

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 豊かな経験を生かし、多彩なプロバスライフを

### 第 71 回 定例会

日 時 :平成 22 年 5 月 12 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関戸公民館第 2 学習室

出席者 :30 名(会員数 37 名)

### 第 72 回 定例会

日 時 :平成 22 年 6 月 2 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関戸公民館第 2 学習室

出席者 :30 名(会員数 36 名)

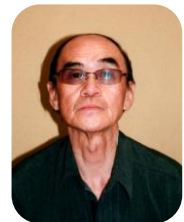
◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

### 理 念

1. 豊かな人生経験を  
生かし地域社会に  
奉仕する
2. 活力ある高齢社会を  
創造する
3. 会員同士の交流と意欲  
の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、  
非営利的であることと  
する

多くの人達に感謝を

地域奉仕委員長 神谷真一



私の勤めていました会社はチェーンのメーカーです。チェーンとは「連鎖」。用途によって形や大きさ、材料(材質)や熱処理の仕方など、製造方法も色々。入社して第一歩目の仕事は設計、次に工務。企画では、会社のカタログの製作を中心に展示会業務を、そしてコンペヤーの製造業務を経て定年を迎えました。

サラリーマン時代は多くの人達より学び、私の人生の柱となりました。家が都心より移り、多摩での生活が始まりました。周りの田園風景を楽しみながら、数少ない休日には多摩川での釣りに明け暮れた生活。そして結婚、子供にも恵まれ、村から町、市へと移り変わる街並みの変化の時期に、多摩市体育協会の発足とともに釣り連盟を作り、多摩川の自然を守りながら春・秋の市民釣り大会を開き、釣り仲間と体育協会の仲間との活動を中心とした日々が続きました。

定年後、女房の奨めで始めた草盆栽、ダンス、写真等の教室での友人も増え、それらより得た楽しみの多い時期に当プロバスクラブの誕生。入会后、当クラブの個性に富む多彩な人達との活動や他団体との交流での学びは生涯学習での手本となる貴重なことばかりであり、益々、少しでも若さを保ちながら張り切っていきたいと思う昨今です。

昨年創立 5 周年を迎えた式典の延長ともいえる全会員が参加するオープンプロバスは、今秋、9 月 21 日から 27 日まで関戸公民館にて開催されます。現在プロジェクトチームにて会合を重ねながら準備を進めています。東京多摩プロバスクラブの活動を展示や講演会などを通して開示・公開するとともに、会員または外部講師による講座・実技演習などの奉仕活動を一般市民に向け、当クラブに対する親しみと理解を深めていただく機会とするために、ぜひとも成功させたいと思います。先日、東京八王子プロバスクラブの生涯学習サロンの閉講式に参加したとき、今秋、日野市でも新たにプロバスクラブが誕生予定とのことでした。近隣三市で横の絆を深めながら「プロバスライフ」を楽しみ、「愛する多摩」での生活を続けていきたいと考えています。



第 6 期臨時総会 (5 月 12 日関戸公民館)

中央が議長の稲田会員、右側が書記の関根会員

## 1. 臨時総会報告

村上伸茲会長

### 東京多摩プロバスクラブ 第6期 臨時総会の開催

1. 日時 平成22年5月12日(水) 13:30~14:00
2. 場所 関戸公民館第1学習室(8F)
3. 議題 1. 会長挨拶 2. 議案:「理念」の改定



#### 会長挨拶(改定趣旨説明)

臨時総会の議案は、「理念の改定」であります。世間一般の通念では、理念・信条・指針・規範・行動基準・行動憲章等は、簡単に変更するものでないと言われています。今回の改定の趣旨は、現行の理念の一部分の表現が分かりにくいという意見が出たため、改定の賛否を諮ることになりました。「奉仕の機会として知り合いを広める」を、「会員同士の交流と意欲の向上をはかる」に改定するというものです。この意味は、「仲間を増やし、会員間の交流を盛んにして、たがいに刺激し合って意欲の向上をはかる」ということです。会員の持つ文化の多様性を共有することは、多様性をパワーに変えることであり、プロバスクラブの持続的発展につながるものです。この機会に、理念の持つ意味を今一度かみしめてみませんか。

#### 議案 「理念」の改定

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>改定案</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する</li> <li>2. 活力ある高齢社会を創造する</li> <li>3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる</li> <li>4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする</li> </ol> | <p><b>現行</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 改定案の1. 通り</li> <li>2. 奉仕の機会として知り合いを広める</li> <li>3. 改定案の2. 通り</li> <li>4. 非政治的、非宗教的、非利益的とする</li> </ol> |
|--|--|

#### 審議の結果 「異議なし」で改定を承認

## 2. 幹事報告

登坂征一郎幹事

1)5月27日(木)、東京八王子プロバスクラブの第14回「生涯学習サロン」閉講式に村上伸茲会長、登坂征一郎幹事、神谷真一地域奉仕委員長の3名が出席した。この「生涯学習サロン」の自前の講師や講座の豊富さなど活動の素晴らしさに感動、当クラブの活動にたいへん参考になった。

2)[World Campus in 多摩 2010]が、7月29日(木)~8月6日(金)が開催される。これは、世界の青年が研修しながら各国を訪問するもの。今年も「ワールドキャンパス多摩」が、これらの青年を多摩市に招き活動を支援する。当クラブに後援の要請があり、5月28日の理事会にて活動の主旨に賛同し、例年通り後援することになった。

3)「全日本プロバス協議会総会」が今秋9月12日旭川市で開催される。当クラブから鴻池敬和副会長、滝川益男広報委員長、滝川道子次期地域奉仕委員長が出席予定。

## 3. 委員会報告

### 3.1 総務委員会

中村昭夫委員長

- 1)5月定例会 出席:30名 欠席:7名

山田正司会員による国土交通省「多摩ニュータウンの再生・平成寺子屋」発表に引き続き、寺子屋塾を軸とした高齢者の集いの場、生き方についての座談会を行った。

- 2)6月定例会 出席:31名 欠席:5名

多摩市国際交流センター会員である外国人ご婦人3名を招き、「多摩ニュータウンの住み心地、日本人への要望」と題してお話頂き、引続き3名を交えて座談会を行った。

- 3)プロバスクラブパンフレット作成

当クラブのPR用パンフレットを150部作成した。

### 3.2 研修・親睦委員会

増山敏夫委員長

1)5月24日、25日益子一泊研修旅行を行う。参加18名、瀟灑な町営ロッジ・フォレスト益子を借り切って宿泊。その夜のディナーはロッジ併設のリス・プランで、こだわりのフランス料理に舌鼓、食後はプロジェクト談義。翌日は益子の森を散策、濱田庄司の益子参考館、魯山人の春風駘蕩荘見学など充実した2日間を過ごした。

2)6月29日、多摩の歴史散歩、東京都埋蔵文化財センターと古民家・旧富沢家見学を行う。参加は21名。

### 3.3 地域奉仕委員会

神谷真一委員長

1)5月12日(水) 地域奉仕委員会の活動は一時休み、これからはオープンプロバスの会議を主にプロジェクトメンバーと打ち合わせ、会場の確保とメンバーの確認を行いました。

2)6月2日(水) 第二回目の打ち合わせは、開催の趣旨、開催日時、場所、市民ギャラリー、会議室での展示・講演等について話し合い、蓮池守一実行委員長より詳しく定例会で発表します。

### 3.4 広報委員会

滝川益男委員長

任期を終えるに当たり、1年間を振り返って総括します。①会報「多摩プロバスニュース」を毎号発刊できたのはよかった。②多くの会員に執筆を依頼するなど、全会員のための会報を目指した。③広報委員全員が手分けしてページ担当に就き、各人の個性を生かしたページ建てができた。④「ホームページ」を新装し内容もレベルアップし、多摩市や全日本PKへのリンクも実現した。⑤委員全員が和気藹々と楽しく活動できた。⑥地域メディアの活用と協働が十分でなかった。次期委員会の活躍を期待します。

## 外国人が見た日本人と多摩N Tの住み心地

中村昭夫会員記

6月定例会に多摩市国際交流センター(TIC)会員である外国人ご婦人3人を招いて、多摩の住み心地、日本人に対する要望などをお話いただき、彼女らから提起された問題について話し合う機会をもった。

3人は北脇ジャネットさん(ベネズエラ出身)、杉本スーさん(シンガポール出身)、新里ジュディさん(フィリピン出身)で、TICの竹内佳代子氏がゲスト参加された。

3人からはまずお国の紹介をいただき、日本に来てからの日本人の印象や多摩ニュータウンの住み心地を話していただいた。3人の方々は皆他の街から多摩に越してきたので「多摩ニュータウンは緑が多く自然豊かでとても住みやすい」とのお褒めをいただいた。日本人に対して感じていることはどなたからも「とてもフレンドリーでマナーがよく親切だ、ただ最近では日本人のマナーが悪くなり、安全だった日本が今は少し危なくなってきた」との指摘もいただいた。



ジャネットさん



スーさん



ジュディさん

日本に来た最初の頃日本語が分からなかったので英語で何かを話しかけようとする、みな「No, No」と言って逃げていった。日本人はやさしいけれど外国人にはあまり話しかけない。「もっと自信をもってオープンに付き合っていて欲しい、また自分から積極的にアピールすべきだと思う」との指摘もいただいた。



座談会風景

(左から村上会長・ジャネットさん  
・スーさん・ジュディさん・竹内さん)

3人の方々とも母国では母国語と一緒に英語を学んでおり、日常会話でも英語が一般的に使われているとのことで「英語はこれから絶対に必要であるので日本でも子どもの頃から英語を学ばせるべきで、小学校1年生から英語授業を組み入れるべき」とのご指摘をいただいた。

出席会員から3人の母国での高齢者の暮らし方について質問があり、各国とも子供や兄弟が同居して面倒みるのが一般的である。ただし、シンガポールでは別々に住む時でも親の近くに住居を持つと家賃が40%割引される制度があり、同居できない子供たちは近くに住んで親の面倒をみているとのこと。

3人の方々からご指摘いただいた多摩ニュータウンの環境については、これからも維持していくように努力する、また安全面では防犯対策を真剣に取り組み犯罪のない街づくりを志す、子どもの頃からの英語教育については実現できるように関係部署に働きかけていく、などの意見が出され、たいへん有意義な時間を過ごすことができた。

## 当クラブのパンフレット完成

平成21年度の総務委員会の課題だった当クラブを紹介するパンフレットが5月に完成し、会員に配布されました。これは従来の要領よくまとめられた「クラブの概要」を発展させたものです。A3裏表印刷で、二つ折りにしてあります。本文は「クラブの概要」を補筆し、写真を加えてクラブの内容をビジュアルに紹介しています。重要なクラブの理念も、5月の臨時総会で改定されたものが載せられています。

表紙には創立5周年記念事業・多摩の風景展の写真部門入選作上田清会員撮影の「パルテノン多摩」を配しました。最終ページには、会報プロバスニュース、美術サークル山田正司会員の絵、プロバスソングを掲載してあります。このパンフレットは、わがクラブを紹介するツールとして「多摩プロバス寺子屋」の案内、入会希望者の参考など広く活用されることになっています。

## 西村政晃会員



完成したパンフレット

**多摩ニュータウンの団地再生化 山田正司会員**



山田正司会員

わが国の高齢化問題は、その人口構成からもいずれ深刻化することは平成年代に入る以前から予測されていた。加えて昨今の無縁化社会の傾向がこれに拍車をかけて、きわめて今日的な課題としても盛んに議論されている。

今年の多摩プロバスクラブの年間講話テーマが、高齢者の暮らし方・生き方を考えることにあるので、5年前に試みた国交省関連実施の「既存共同住宅団地の再生に関する提案募集」での当クラブ応募案が、今第71回定例会卓話に再度取り上げられた理由である。

多摩プロバスクラブの発足から2年目の平成17年7月時点では、会員各人の持ち味である多様で優れた専門性を、いかに奉仕活動に有効に生かし得るかが真剣に検討されていた。その中に、すでに地元小学校から当会員への依頼で、そろばん指導や地域の昔話(主に昔の生活習慣)などの活動が実施されていたが、これにヒントを得た出前講座(寺子屋塾)企画があった。折しも財団法人ベターリビング(国交省、UR都市機構よりの委託)実施の前記提案募集の機会にめぐり合い、わがプロバスクラブも日本の誇る多摩ニュータウンを抱える地域の高齢者グループ奉仕活動の一環として、これに応募するに至った。

提案された内容は、ニュータウンで最初に開発された永山地区のUR賃貸住宅団地で、中央を南北に通る歩行者路沿いの搭状高層住棟一階2戸分を、コンクリートの構造躯体はそのままに内外部を開放的に模様替えして、多機能コミュニティ施設として改装し、子供から老人まで幅広く利用される現代版寺子屋(塾)を創設するものであった。

塾の構成は当プロバスマンバーの専門性を生かした、すでに実施されていたそろばん、地域の今昔塾の他に、ラジオ体操、国際会話、パソコン、お作法、陶芸、囲碁、音楽、絵画、写真、料理、おしゃれ塾等々、学習から暮らしや趣

味に至るまで幅広い分野での活動を掲げている。この塾の運営、管理に関してはあくまでも団地住民、自治会が主体となって、当プロバスクラブがこれに積極的に協力し、多摩市、UR都市機構、国交省等も指導・支援することが強く求められた。全体応募149案の中から53案の優れた提案に選ばれた第一の理由は、多摩プロバスクラブのような地元地域の市民でしかも高齢者グループによる積極的な姿勢が評価されたものである。内容の実現化には法制度上の課題等も残るが、既存団地再生手法への貴重な視点と試みであることも同時に評価された。

多摩ニュータウンへの入居が始まって40年が経過し、建物の耐用、耐震等の気がかりな課題も山積しているが、こうしたいわばハードな問題と同様に、入居者の高齢化に係わるソフトな社会的状況も深刻であり、独居老人の孤独死など予断の許されない情勢となっている。私たち市民一人一人の問題として、真剣に地域コミュニティーを考え行動することがきわめて重要であろう。

**座談会 <高齢者の暮らし方・生き方>**

この席上での会員意見の主なものを紹介すると…

- \* 昭和46年に入居が始まって以来、40年以上経ったいま、居住者が高齢化し、エレベーターのない中層階の上の階にいる高齢者は外に出なくなった人が多い。
  - \* 市では地元の人たちと新しく入居してきた人たちとの交流の場としてコミュニティーセンターを造った。他の都市にはないものだ。コミセンは住民の自主的運営に委ねられ、リタイヤした地域のひとたちが良くリードし、一人暮らしの高齢者のケアも考慮されている。
  - \* コミセンを有効活用して、山田会員提案の寺子屋を開設してはどうか、または作るよう市に働きかけてはどうか。講師はプロバスマンバーも担当してはどうか。
- <まとめ> これからも高齢者の暮らし方・生き方というテーマで議論を続けていき、われわれプロバスマンバーとして、“高齢者に対してどのような活動をすべきか”を見出していけたらと願っている。(中村昭夫会員記)

**誕生日を迎えた方々 文責・稲田興会員**

- 5・6月に誕生日を迎えられた会員4名からのお言葉
- ・楠 慶二(5月9日)古希を過ぎ、健康でいられることに感謝。健康の源は、愛犬ナナ(黒:ラブ7歳)との毎日の桜ヶ丘公園の散歩だと思っています。犬に感謝!
- ・永田宗義(5月22日)古希を迎え新たな一年の始まりにあたり、三感の「感心をもつ」「感動する」「感謝する」に努め、心豊かにより良い日々を過ごしたく思います。
- ・滝川益男(6月14日)若い頃は、区切りよく60で人生を終わりたいと思っていました。このほど71歳の誕生日を頂き感無量です。これからは、笑いの多い、楽しい人生を目指してまいります。

- ・北村克彦(6月20日)71歳になりました。多摩プロバスの皆さんを見習って、出来ることには何でも挑戦し、「反省すれども後悔せず」の気持ちで、これからも元気で生きていきたいと思ひます。



滝川会員 楠会員(左) 永田会員(右) 北村会員

第1日目

滝川道子会員

聖蹟桜ヶ丘を出発し、市街地を抜け、大泉から東北道へ小一時間走ると佐野サービスエリア。ここは佐野ラーメンで有名、早速昼食を！雨が降り続き気温も低く寒い一日になりそう。でもラーメンの美味しかったこと。体が温まりほっとした気持ちでマイクロバスに乗車、一路益子へ！バスの中では皆さん居眠り、ビールが効いたようです。佐野から一時間くらいで益子町へ。月曜日は街全体が足並み揃えて店は休日とのこと、春の陶器市ではたいへん賑わう益子焼き物センターへ立ち寄り、開いている店をひやかす。そしていよいよ今晚の宿泊先「フォレスト益子」に到着。「フォレスト益子」は、県立自然公園の森の中にあり里山林の落葉樹で囲まれています。芝生広場、吊り橋、展望台があり家族で訪れると楽しいだろうな！と思いました。それぞれが部屋に入り荷物を置いた後、食事までの時間一部屋に集まり歓談、どういっわけか血液型で大いに盛り上りました。

今回の旅行の最大の目的のひとつ「リズブラン」でのフルコースの夕食は、益子の森の自然と絶妙なハーモニーを奏でているレストラン益子周辺の産物を中心に、美味豊かな旬の食材を使い素材の持ち味を生かした品々は、丁寧で心配りが効いた確かな味でした。まるで器ごとキャンパスのようです。メニューを少し紹介します。[ワイン・旬の野菜の前菜・手作り焼き立てパン・メインデッシュの皮がカリカリの白身魚・スープ・衣に包まれた柔らかな牛肉・デザート・コーヒー]皆様満足して下さい

いるか  
気になり  
つつ、  
美味し  
くて幸  
せ！歓  
談の中  
、夜は  
更けて  
ゆき  
ます。



「フォレスト益子」の前で

第2日目

小西加葉子会員

益子の自然の中での目覚めは、爽快でした。8:30の食事時間まで各自「フォレスト益子」周辺の散策に出かけ、途中トリムの遊具を楽しんだ方もいらっしゃったのではないのでしょうか。朝食がとても素敵でした。自家製のパン・ヨーグルト・ジャムが野菜の味を引き立たせ、里山のさわやかな空気も一役かって、朝のコーヒーを頂く会員の顔と心はニコニコ、素晴らしい一日の始まりでした。

午前中は濱田庄司さんの「益子参考館」に行きました。山間の中に自宅の一部を活用して、本人の作品やコレクションを展示、裏には登り窯も残っていて、絵心のある方はスケッチブックを持参し自然を満喫していました。

昼食は前日パンの買物でお世話になった

お店で済ませ、次に笠間にある日動美術館の分館である「春風萬里荘」まで足をのびしました。ここは1965年に北鎌倉にあった北大路魯山人の自宅を移築したものです。万事に凝り性だった魯山人は、江戸時代の茅葺き入母屋造りの民家の馬屋に、年輪を刻んだ樺の木目を見せる「木レンガ」を一つ一つ自分で敷き詰め改装。奥にあったトイレも自作の陶製便器で、会員の一人が「僕あれ欲しいな」とアサガオ型の便器を見て言っていたのが、妙に可笑しかった。茶室の「夢境庵」は、千利休の孫によって作られた裏千家の名茶室「又隠」を手本として魯山人が設計したといわれています。床柱が素晴らしかったことと、茶室から見える洞山水の石庭などは、建築のお仕事をされていた会員やお茶の趣味の多い会員の皆様の研修旅行として満足して頂けたのでは、と思います。帰りは渋滞もなく、女性ドライバーの快適な運転で無事に多摩に戻りました。



益子のタヌキ像の前で

埋蔵文化財センターと古民家を訪ねて 大澤亘会員

曇天の6月29日(火)午前10時に多摩センター駅に集合したのは会員21名。まず、徒歩で5分の東京都埋蔵文化財センターに向かう。同センターでは現在、企画展「あつ、縄文だ！」を開催中で、縄文土器を中心にニュータウン開発中に発掘された遺跡からの出土品が旧石器、縄文、弥生、古墳と時代別に分類されている。特に縄文土器の形、大きさ、文様の見事に驚かされた。また遺跡庭園「縄文の村」には、この場所で発見された約6000年から4500年前の

竪穴式住居2棟と敷石式住居1棟が復元されており、往時の生活が偲ばれてたいへん興味を感じ面白かった。(次ページへ続く)



埋蔵文化財センター正面の展示物

昼食後、多摩中央公園の一隅に移築されている旧富澤家邸宅の見学を行う。富澤家は江戸時代初期から連光寺村の名主を務めた名家。現在の建物は、富澤家から寄贈を受けて連光寺から移築した母屋で、客座敷と日常生活部分を完全に分離した多間取り型となっており、18世紀後半ころの上層民家の構造がうかがわれ興味深かった。

今回をもって、本年度の研修・親睦委員会の企画による10回目の行事は終了することになりますが、毎回、有益でユニークな行事を大いに楽しむことができました。



旧富澤家邸宅前に勢揃いの参加メンバー

◇◇◇ 多摩の歴史散歩—その3 ◇◇◇

**固有の底力を持っていた農村 蓮池守一会員**

江戸後期の多摩は、伊豆菰山代官下で庄屋名主を中心に自給自足、互助自衛で村落を形成し、穏やかな暮らしが続いていました。

江戸・横浜との往来もあり、豪農の子息は学問文芸を学び、農民は神楽や農村歌舞伎、俳句や手習いに熱心で固有の力を有していました。

これらを生んだ社会的側面は、自活、共同体の村落構造であり、自然的側面は丘が波打つ地形が生み出す薪や炭、柿や栗、米や麦、豆や芋類など多様な生産物、それらを原料に味噌、醤油、種油なども自給していく力を持っていたことによるといわれています。

**豪農たちと新選組**

江戸後期に入ると武士の力が弱体化し、逆に商人や農民が力を有するようになりました。また、多摩地域には見られなかったが、秩父や相模困民党の乱も起き、自衛の組織や力が必要になり、兵農分離の原則もくずれ、帯刀がゆるやかになったことも因をなし、豪農が剣術指南人を雇い、農民にも武術を奨励していたようです。多摩



小島資料館 (町田市小野路町)

地区では近藤勇を代表とする天然理心流の剣法が流行し、各所に道場・指南所がつくられました。現在の多摩市との関係では、天然

理心流三代目の近藤周助が、隣の町田市小山の

出身者だったので、門弟の近藤勇や沖田総司、土方歳三等を引き連れて、小野路の小島家への出稽古に度々訪れたとき、指南を受けていたようです(連光寺富澤家、貝取浜田家には記録があります)。

新選組のことでは、日野市がその出身者である土方歳三に関する各種イベントを行っているのが有名で、また、新

選組の京都での事件や活動、大政奉還期の佐幕派としての戦いについては歴史ドラマで放映されているので、今回は略します(日野市立新選組のふるさと歴史館の見学を奨めます)。



日野市立新選組のふるさと歴史館

**三多摩壮士 自由民権運動**

先に記したように、多摩地域には歴史的土壌としての固有の底力を有していたといわれています。

その流れが八王子の千人同心隊、三鷹日野の新選組、そして豪農の子息が江戸で学んだ和魂洋才の精神が土台となって、明治新政府に対する国会開催や自由民権運動へと高まっていったものと、私は理解しています。

具体的には、西多摩で千葉卓三郎起草の五日市憲法、武相の困民党、被差別部落の解放とキリスト教受容等の民権運動をあげることができます。

当時、多摩は六郷川から酒匂川までの武州にあり、武相連合での自由民権運動に参加していました。その中心者は町田市小野路の石阪昌孝(明治13年初代神奈川県会議長)で、国会開設の建白署名簿の提出、南多摩郡の東京府編入計画への意見書提出など、民意・議会主義の政治、民権運動をすすめました。

この運動には北村透谷(昌孝の娘美那と結婚)や多摩市の富澤政恕をはじめ多くの豪農家も加わっていた記録があります(町田市野津田の市立自由民権資料館に多くの展示物があります)。



町田市立自由民権資料館

(以下次号)

◇◇◇ 会員の活躍 ◇◇◇

■堀内陽二会員が多摩市文化団体連合（文団連）の理事長に就任

堀内陽二会員がこの5月、多摩市文化団体連合（文団連）の理事長に選出され、今後2年間、秋の市民文化祭の実行や近隣諸都市・友好都市長野県富士見町の文化団体との交流など文団連の主要な事業について、総責任者として活躍されることになった。

堀内会員はこれまで文団連事務局長としてその活動を推進してきたほか、自身も文団連加盟の多摩市囲碁連盟の会長として文団連との関係が深かったが、これからは多摩市21の文化団体の協働事業のまとめ役として一層の活躍が期待される。（大澤亘会員記）



多摩市民文化祭（2004年）で乾杯の音頭をとる堀内会員

■阪東熙子会員が多摩市茶道連盟の6月月釜で席主を務める

阪東熙子会員は、多摩市茶道連盟の会員（武者小路千家）として、同連盟の6月月釜で席主を務めた。会場は関戸公民館の茶室で、マニュアルにとらわれない家元掛軸を床にかけ、おもてなしの心を茶席にしつらえてお客様をお迎えしていた。同会員は伝統芸能に造詣が深く、「茶遊会」という会を持って後輩の指導にも情熱を注いでいる。また、当日は多摩市国際交流センター（TIC）の紹介で中国人の若い夫婦の参加もあり、国際色も豊かで終日笑い声の絶えない楽しい一日となった。

（大澤亘会員記）



お茶室で阪東会員

◇◇◇ 「オープンプロバス」プロジェクト活動 ◇◇◇

オープンプロバスの進捗状況 神谷真一リーダー

6月2日、第2回目のプロジェクト会議を行い、蓮池守一実行委員長のもとに、以下のように集約いたしました。

①開催の趣旨…プロバスクラブの活動を展示や講演などを通して開示・公開するとともに、会員または外部講師による講座または実技的演習等の奉仕的活動を一般市民に向けて行い、当クラブに対する親しみと理解を深めていただく機会とする。

②開催時期・場所…平成22年9月21日（火）～27日（月）  
関戸公民館市民ギャラリー  
同9月25日（土）同8階大会議室

③運営内容案（ギャラリー）…会員の趣味・特技・サークル活動等を紹介する絵画や写真・魚拓・陶芸・俳句その他会員の作品展示（私の一品）、プロバスの活動紹介のパネル・記録の映写他、ギャラリーの一角で煎茶接待、絵画や陶芸・写真等の実技デモ・相談等。

なお今後の活動内容は、一般市民への広報・PR活動、事業計画細案と役割分担、運営予算の策定、およびこれらの打合せ会議日程などを決めていきたいと思っております。

◇◇◇ 環境問題プロジェクト活動 ◇◇◇

炭酸ガス排出量調査について 稲田興一リーダー

今回実施した4月実績調査には、21名の会員が参加していただきました。提出いただいたデーターの単純平均では、会員一人一日当たり7.1kgの炭酸ガスを排出したことになります。算出結果は、7月定例会時に個人別にお配りいたしますが、集計内容で見ますと各家庭間にはかなりのばらつきがあり、Max14.9kg～Min3.6kgと4倍もの開きがあり、マンションは戸建てより3割増、三人住まいは一人住まいの半分以下の排出量という結果でした。

今回は初めてのことで、特殊要因があったり、データーの取り方に問題があったかもしれませんが、この調査結果でおおよその感じはつかめるかと思っております。項目別で見ますと、電気とガソリンの利用によるCO2排出量が多かったので、これらに関する省エネ策について皆さんとともに考えていこうと思っております。

なお、この調査は季節要因を考慮して、この一年間を3か月毎に調査してみる予定です。

スウェーデン「ABU」製のリール 岡野一馬会員

わが家には、お宝的な一品といえるものは見当たらない。考えた末、道楽の釣の道具を披露することにした。

戦前、少年期を瀬戸内海の尾道で過ごした私は釣り好きの父に連れられてよく海に出かけていた。こうして成人後も、海や川で釣に親しんでいる。その血を継いだのか、ミラノに住む息子はアルプスの渓谷で、フライフィッシングや日本のテンカラ釣りを楽しんでいるという。

リールは釣りの心臓部

40代(40年前)ルアーフィッシングに熱中し、津久井湖へブラックバス釣りによく行った。当時、道具はほとんど輸入品で、竿、リール、ライン、ルアーなど結構な値段で相当無理をしながら購入していた。この釣りの心臓部はリールである。リールは何ととっても、スウェーデンのABU製に優るものはない。私の一品は、このABU製アンバサダー5000Cという小型ベイトリールである。原型は戦前に作られており、改良は加えられているが、形はほとんど変わっていないという。伝統の名器である。

現実には、この名器で釣り上げた獲物は30cm級ブラックバス2尾のみである。今はこの名品ABU5000Cを使うこともなく、棚の奥深くに鎮座している。このほど(?)あるルアーファンの若者が譲って欲しいと言ってきた。すでに実用よりも骨董的価値が出ている代物らしい。

やはり、私の手離せない一品である。



伝統の名器 ABU5000C



リールにあるスウェーデン国章

○毎号のフロントページに掲載の「理念」が、5月の臨時総会にて一部改定されました。「3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる」が新たな項目。臨時総会の様子は、村上会長が2頁ボックス記事で報告しています。

○このほど当会のパンフが完成し、西村会員に紹介記事を執筆いただきました(3頁)。総務委員会の尽力に深謝。

○今回の「私の一品」に岡野元会長が秘蔵の「スウェーデン製のリール」を準備され、私も写真撮影の席で実物を手にすることができましたが、40年の歴史を持つ一品の手ざわり、鈍い光沢、ずしりと感じる重厚さに驚かされました。○中村総務委員長の肝煎りで「外国人が見た日本人と多摩ニュータウンの住み心地」をテーマに座談会が開かれました。三人の外人女性の華やかな出席と率直な意見の交換に、いろいろと考えさせられることも多く、たいへん意義ある試みでありました。(以上 平田記)

○任期終了にあたり広報委員各位に感謝の意を表します。陰の仕事すべて担ってくださった大澤副委員長をはじめ、まとめ役の長老・平田さん、編集に苦心された楠さん・稲田さん・永田さんの各位、写真で苦勞された神谷さん。皆さん本当にお世話になりました。今後は平田新委員長のもと、斬新な誌面づくりを期待します。(滝川記)

◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛  
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて  
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と  
社会奉仕に力をそそぐ  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い  
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の  
教え導く糧となる  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ